

トビウオ通信 (H24 第7号)

<http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《平成24年度第2回日本海スルメイカ漁況予報》

平成24年7月20日に水産庁および独立行政法人水産総合研究センター（日本海区水産研究所）より「平成24年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報 ※¹」が発表されました。今回はその概要と島根県沖でのこれまでのスルメイカ漁況を紹介します。

今後の見通し(平成24年8月～12月)のポイント

対象魚種：スルメイカ

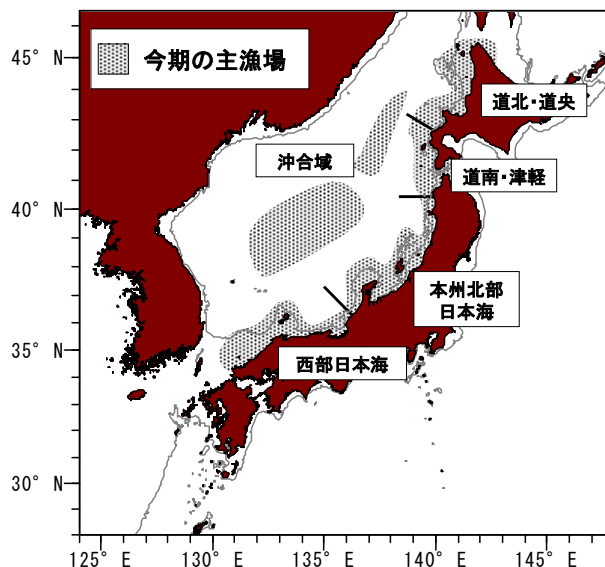
対象海域：日本海（道北・道央、道南・津軽、本州北部日本海、西部日本海、沖合域）

対象漁業：主にいか釣り漁業・小型いか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群、後半は冬季発生系群も含む

- (1) 来遊量：前年および近年平均を上回る。
- (2) 漁期・漁場：8月の北海道周辺海域が中心。
- (3) 魚体の大きさ：北海道周辺では前年および近年平均より大きい。

☞ 近年は最近5年間(平成19年～平成23年)、前年は平成23年を示します。



日本海スルメイカ漁況予報の概要

平成24年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報では、以下のとおり5つの海域ごとに(1)来遊量・漁況、(2)漁期・漁場、(3)魚体の大きさが予測されています。予報内容は、(A)平成24年6月下旬～7月上旬に実施されたスルメイカ（秋季発生系群）の日本海漁場一斉調査の結果、

(B) 5～6月のスルメイカ漁況、および(C)太平洋側のスルメイカ(冬季発生系群)の分布状況の3つの情報に基づいています。

漁場	範囲	(1)来遊量・漁況	(2)漁期・漁場	(3)魚体の大きさ
道北・道央	宗谷～後志	前年および近年平均を上回る	8月の道央海域が中心	近年平均より大きい
道南・津軽	渡島、檜山、青森県	前年および近年平均並み	9～10月は漁獲量が低下する	近年平均より大きい
本州北部日本海	秋田県～石川県	前年並み、近年平均を下回る	活発な漁場形成はない	近年平均並み
西部日本海	福井県～長崎県	前年を上回り、近年平均並み	漁場形成は10月以降	近年平均並み
沖合域	日本海中央部	前年を上回り、近年平均並み	北海道沖が中心	近年平均並み

本紙では、島根県沖を含む「日本海西部」および「沖合域」に関する予報の詳細を紹介します。その他の海域については「平成24年度第2回日本海スルメイカ長期漁況予報^{※1}」をご覧ください。

※1：http://abchan.job.affrc.go.jp/gk24/20120720_n.pdf

(i) 日本海西部(福井県～長崎県)

予報対象期間(8～12月)の西部日本海では、10月以降に沖合から南下する群が漁獲対象となります。漁場一斉調査結果では、来遊尾数は前年および近年平均を上回り、前年よりも大きい個体が多く漁獲されました。一方、この海域における5～6月の漁獲量は前年および近年平均を下回り、近年はこの海域の沿岸域にスルメイカが来遊しにくい傾向にあります。こうした傾向を勘案し、今期は10月以降に漁場が形成され、漁況は前年を上回るものの、近年平均並みと予測されています。

(ii) 沖合域（日本海中央部）

沖合域では大和堆付近が主漁場であり、8月下旬～9月以降には武蔵堆にも漁場が形成されます。大和堆付近での漁場一斉調査結果では、ほぼ前年同様の来遊尾数・魚体の大きさ（外套背長 19～22cm 台）でした。しかし、近年は漁場が北偏化する傾向が認められており、より北方の道南から道央で大きい個体が前年および近年平均よりも多かったことを重視し、今期の漁況は前年を上回り、近年平均並み、漁場は主に北海道沖に形成され、漁期のピークは前年よりも早いと予測されています。

島根県沖での漁況

主要3港（浜田、恵曇、西郷）における小型イカ釣（5トン以上30トン未満）によるスルメイカの月別の水揚動向を図1に示しました。平成24年の1月～6月までの水揚量は236トンで、近年平均の22%、前年の28%に留まり、低調に推移しました。

島根県沖での今後の漁場形成は例年10月以降になると考えられますが、日本海ス

ルメイカ漁況予報でも指摘されているように近年はスルメイカが沿岸寄りに来遊しにくい傾向が強いため、沿岸域での漁況は低調に推移する可能性が高いと考えられます。

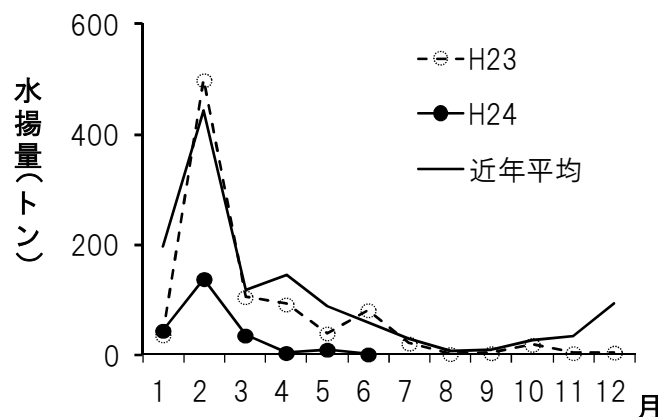


図1. 主要3港(浜田、恵曇、西郷)におけるスルメイカの水揚動向